

学習内容と到達目標

☞ 休みの日はどんなことをして過ごすのかについて話すことができるようになる。

指導のポイント

1. INTRODUCTION 第11課の復習。ステップ2での学習内容が定着しているか十分に確認した上で先に進む。①で曜日と時間の表現や「～ながら」を使えなかったり、②で質問にすぐに答えられなかった時は、第11課の入念な復習が必要。

2. SPEAKING タ形はまだ学習していないので、②では（予習をしてきた学生以外）「午前そうじします。それから洗濯します」のように話すと予想されるが、学習者の気づきを促すための「前フリ」なので、それで構わない。

3. LISTENING ①では話の内容に注意を向けさせ、イラストの中の間違いを指摘させる。「～たり～たり」という表現を知らなくても、「家事」「音楽」「テニス」などの語彙を拾えば問題なく解答できるはず。その後、②でディクテーションをし、動詞文の接続方法や動詞句を使った例示の方法について考えさせる。

4. FOCUS タ形への変換（①）はテ形さえしっかりと定着していれば難なくできるはず（できてほしい）。その後②で、これまでに学習した辞書形、ナイ形、テ形の定着具合を確認する。また、「聞きます一聞く一聞かない一聞いた一聞かなかった」のように、過去時制の否定を含めた練習もしておく。

これまでの経験上、学習者は「音楽を聞いたり、本を読んだりです」のように「します」ではなく「です」で言うことが多いので、③では「～たりします」でいつも終わるのではなく、「～たりしています」や「～たりするのが好きです」、「～たりして楽しかった」などのように、文末にバリエーションをもたせるようにし、「たり」の後に続く「します」に注意が向くようにした。

テ形を使った文接続では、テ形は「本を見て答えを書く」や「彼女と別れて悲しい」のように、前件と後件の関係によっていろいろな意味に解釈できる（前者は「～ながら」の意味に、後者は「～から（理由）」の意味に解釈できる）が、④では全て「そして／それから（and）」の意味に解釈できるものだけを載せている。

⑤はCDを聞く前に15枚の絵がそれぞれ何を意味するのかを確認しておく。

5. SPEAKING 質問の4～6はその場ですぐに答えられるものではないので、事前に調べさせておく。

活動例

☞ [5. SPEAKING] と [7. WRITING] がこの課の主要な活動なので、この2つの活動にじっくりと時間をかければ十分。